

バスのできごと

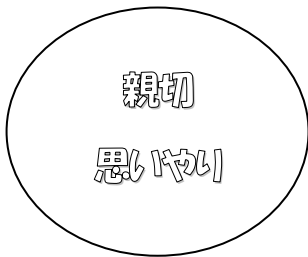
(参観のキーワード：心メーターの利用)



— 学習すること（ねらい） —

◎バスの乗客の気持ちや運転士の心の葛藤を考えることを通して、相手の気持ちを考えて行動することとはどのようなことか、誰に対しても思いやりの心をもつことの大切さについて考えを深めます。

— ねらいとする道徳的価値は —



私たちの周りには、様々な考えをもった人がいます。その中で、よりよい人間関係をつくっていくためには、相手の置かれている状況を理解し、思いやりの心をもって人に接することが大切です。バスの乗客の立場を理解し、運転士の心の動きを想像することで、相手の気持ちを考えて行動することの大切さに気づき、道徳的判断力を養うことをねらいとします。

— この授業で使う資料について — 『参考資料：モラルジレンマ資料（荒木紀幸）』

発車しようとしていたバスに、一人の老人が乗りこんできます。このバスは特急便です。老人が降りようとしていた「台町」のバス停には止まりません。そのことに気付いたのは、すでにバスが発車した後でした。その先の元町まで行ってしまうと、台町までは4キロメートルも引き返さなければなりません。事情を知ったバスの乗客たちは、「台町でおろしてあげて。」「そういうことはできないんだよ。」と様々に言い始めます。それを聞いた車掌は困ってしまいます。なぜなら、規則で定められた停留所以外の所では、緊急の事故をのぞいて、客の乗り降りが禁じられていたからです。

— 学習活動と主な発問 —

- 1 親切にしてもらって嬉しい気持ちになった経験を話し合う。
○今までに親切にしてもらってうれしい気持ちになったことはありますか。
- 2 資料「バスのできごと」を読んで話し合う。
○乗客だったら、どう思いますか。
○運転手だったら、どうしますか。
◎運転手さんは、どんな気持ちでこの行動をしたのでしょうか。
- 3 自分の生活をふりかえる。
○どのような行動をすればよいか、迷ったり困ったりしたことはありませんか。
○どう行動すればよかったと思いますか。
- 4 教師の話をきく。

— 子供たちのこんな姿を期待します —

相手のことを考えて、自分が相手に対してどのように接し、対処していけばよいかを考え、まわりの人に対して思いやりの心をもって行動しようとする意識が高まることを期待します。

